

2年ぶりに結集！各種課題の解決に向けて全体で意思統一

～林野労組九州地本第19回定期大会～



議長団の宮本（宮崎）（左）と下田（鹿児島）の両代議員

大会は、議長団に宮本（宮崎）分會・宮崎ブロック、下田（鹿児島）分會・鹿児島ブロックの両代議員を選出し、議事が進められました。

九州地本は、7月21～22日、熊本県玉名市「イカルホテル」において、全国林野関連労働組合九州地方本部第19回定期大会を開催し、各分會代議員など約50名が参加しました。



発行所 熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合九州地方本部
（電）096-354-1150

緑を育て、守る、林野労組

当面の活動

8月5日 鹿児島分會
9日 執行委員会
22日 宮崎県林活議連研修会（宮崎市）
24日 福岡、西都尾湯分會大会
25日 宮崎、都城分會大会
29日 執行委員会
31日 林活議連九州連絡会 議役員会（大分市）

【取り巻く情勢】

新型コロナウイルスの現状について、3年余り続く感染対策は大きな節目を迎えました。コロナ禍によって、労働環境や働き方にも変革が求められ、労働者の雇用や賃金に大きな影響を与えました。



地本委員長あいさつ 変化していく時代 将来を見据えた取組

た、林野労組中央本部・鳴川書記長からあいさつを受けた後、連合・林野労組各地本をはじめ各政党・議員、友誼団体からのメッセージが披露されました。引き続き、地本執行部から2022年度経過と総括、2022年度決算報告、会計監査報告2023年度運動方針（案）、2023年度予算（案）、事務報告、組織財政確立委員会報告が提案され、質疑・討論が行われました。

「取り巻く情勢」新型コロナウイルスの現状について、3年余り続く感染対策は大きな節目を迎えました。コロナ禍によって、労働環境や働き方にも変革が求められ、労働者の雇用や賃金に大きな影響を与えました。

一方、多くの重要法案で、野党連携は困難な状況になっている状況にあります。こうした情勢の中で、6月解散、7月総選挙は見送られました。早ければ、秋の臨時国会での解散が想定されます。

【国有林野事業について】

国有林野事業については、一般会計移行後、国有林の使用・役割は多様化し、その期待も大きなものになっています。そういった中で、林業施策については、一定の推進が図られてきました。

【組織態勢の確立に係わる課題】

2006年に林野労組を結成して、17年が経過します。当時、全員が林野労組に結集することを、最大目標にして

面した。そのことが、運動の成果が、なかなか見えないといった声が聞かれる中にも、組合員一人一人が、組織の重要性を認識し、高い意識のもとに、高い組織率を維持してきたと思っています。このことは、九州地本の財産だと思っています。あらためて、感謝を申し上げます。また、定年延長は決まりましたが、ここ数年で、分會の組織運営や業務の中枢を担ってきた年代が、大量に退職します。若返りが進む中で、地本・分會の組織運営など、新たな課題があると思っています。

面的な、思いやり、助け合い、励まし合い、認め合う中で、組合員同士の繋がりを大事にし、工夫しながら、分會の組織運営をお願いしたいと思っています。今後さらに、一声・一枚岩運動を強化しながら発展させ、運動を引き継ぐ、若い組合員の育成に向けて、学習会や地本レクを開催するなど、組織態勢確立のための取り組みを進めたいと思います。

策については、一定の推進が図られてきました。しかしながら、国有林における規制改革、規制緩和に基づく「樹木採取権制度」の導入や「再エネタスクフォース」による規制緩和の動きなど、「新自由主義的政策」に翻弄されています。

そうした中で、職場実態は、要員不足による慢性的な労働過重など多くの課題があります。引き続き、具体的な対策を求めるとともに、将来を見据えた運動を進めていきたいと思っています。

地本としては、先を見通した組織運営・組織体制などの議論を進めなければならぬと思っています。分會段階では、若手育成の観点から、内

最後に、役員改選で新たに執行委員長に選任された加藤地本執行委員長による閉会挨拶が行われました。

副執行委員長 中川秀樹
書記長 古村健児
執行委員 松本慎剛
執行委員 歌野国光
執行委員 加来尚貴

『台風襲来』

（撮影者：松永一彦・屋久島署分會）

「匠の一言」 離島では、台風が来るとすぐこうなります。みなさんも離島に異動した際は気をつけて！



先日記念された第19回定期大会

役員改選が行われ、担当も少し変更となり、この年輪の記事も私が担当することになった。いきなりは難しいが前担当に近く、よう頑張りたいと日々奮闘中である。▼記念すべき第1回目はどう書こうか悩んだが、タイトルどおり「年輪」についてが最も良いと考えた。▼ご存じのとおり年輪とは年月を重ねた証であり、形は綺麗な円形や、楕円形であったり、輪の幅が広い方が良いとは限らず、狭い方が良質な材となる事も。皆様の人生においても色々な年輪を残してきたと思われ、それがどんな年輪であったも精一杯生きてきた証であろう。その年輪に自信をもって頂きたいと感じている。ちなみに私は年輪の数はそんなに増えなくてもいいと感じる世代となってきた事を実感している……。

(SUKE)

7/22~7/23

地本大会の質疑・討論

生活を守る取組関連

平松(局分金)

賃金の引き上げについて大幅なペースアップとなるよう交渉を進めてほしい。

秋吉(長崎分金)

赴任旅費について、離島への自家用車運搬費用を対象とするよう求める。

犬童(都城分金)

赴任旅費について、配偶者等と一緒に異動する場合、扶養の関係で半分しか出ない制度になつていて改善を求める。

稲員(福岡)

賃上げに関連して、花粉症対策としての外国人材受入に関する状況報告もあったが、日本の賃金が安くて、日本人が外に出ている中で外国人材が来てくれるのかということもある。まずは、日本全体の賃金をあげていくことが大事ではないか。

〈地本見解〉

賃金等の関係について、人事院の民間給与実態調査は終了し



西 (沖縄)



武原 (大分)



橋本 (大分西部)



牧瀬 (佐賀)



平松 (局)



秋吉 (長崎)



犬童 (都城)



稲員 (福岡)



猪瀧 (北薩)

ているが、必ずしも連合集計と同様の傾向を示すとは限らないことから余談を許さない状況があるが、引き続き、公務労協とも連携し取組を進める。

釜(宮崎北部)

要員減に対し事業量が増加しているため解消を求める。また、若者のグレードと責任度合いがマッチしていないため解消に向けた取組を求める。

西山(局分金)

要員関係について、ここ5年間で退職者が増加し、空席ポストが増加しているため、新規採用者等の要員確保を求める。

武原(大分)

選挙闘争について参議院大分補欠選挙を闘い、僅差であったが落選となり厳しい結果となっている。今後も選挙闘争は重要になってくることから前進するよう地本の指導強化を求める。

吉田(大隅)

森林整備に係る入札状況について、入札を実施しても、事業体の数が少なく手一杯。不調が多く出ている。このような状況が続けば業務運営に支障が生じると懸念している。地本としても対策が必要なのでは。

猪瀧(北薩)

新しいシステムやGSなど導入が進んでいるが、導入に当たって習熟期間が短い。さらに不具合も多く業務に支障を来している。担当する組合員の新たな負担とならないよう当局に求めて欲しい。

〈地本見解〉

要員問題については、将来要員規模を基本要素としているが、

業務運営関連

猪瀧(北薩)

新しいシステム等導入全般について

新しいシステムやGSなど導入が進んでいるが、導入に当たって習熟期間が短い。さらに不具合も多く業務に支障を来している。担当する組合員の新たな負担とならないよう当局に求めて欲しい。

釜(宮崎北部)

収重量・生産量について

要員不足の中、収重量、生産量共に増加しており、現場は苦勞している。特に若い人たちの苦勞を改善して欲しい。

武原(大分)

選挙関連

武原(大分)

選挙闘争について参議院大分補欠選挙を闘い、僅差であったが落選となり厳しい結果となっている。今後も選挙闘争は重要になってくることから前進するよう地本の指導強化を求める。

吉田(大隅)

森林整備に係る入札状況について、入札を実施しても、事業体の数が少なく手一杯。不調が多く出ている。このような状況が続けば業務運営に支障が生じると懸念している。地本としても対策が必要なのでは。

〈地本見解〉

参議院大分補欠選挙について、落とせない選挙ということを取り組んだが大変厳しい結果となった。林野労組が抱える課題の前進のためには国会対策を中心とした取組が重要との認識の下、選挙闘争の意義の確認も含め組織的な選挙闘争に向けて取組を進める。

デジタル庁設置以降、矢継ぎ早に大臣官房が主体となって、限られたスケジュールで新しいシステムの導入が進められている。地本としても、限られたスケジュールの中であつても、当局に対しての対応を求めているところ。

財政関連

藤川(局)

物価高等により生活が厳しくなつてきていることから脱退する組合員も出ている状況である。組合費の見直しも検討してもらいたい。

西(沖縄)

ろうきんについては、沖縄とその他九州の県とのやり取りについては手数料が発生する。統一していない現状では厳しく、何か地本として対策を行えないか。

〈地本見解〉

組合費の引き下げの要望があることは以前から承知しているところである。全国組財での経過を踏まえ、今後も活動を継続していくためには必要最小限の経費が必要であり、現行の組合費の率を下げるのは厳しいと考えている。また、物価高で生活に対する組合費のウエイトが高いついて、強く当局に求めている。

デジタル庁設置以降、矢継ぎ早に大臣官房が主体となって、限られたスケジュールで新しいシステムの導入が進められている。地本としても、限られたスケジュールの中であつても、当局に対しての対応を求めているところ。

組織態勢確立

川口(熊本南部)

当分会において再任用が非常に増えている。問題なのが執行体制に。再任用の加入率も1/3入ればいい方。もうすぐ退職の者、若手の者がほとんどとして、一定の成果と認めている。しかし未加入者は現職2名、再任用4名となっている。今後、当事者においても退職者が増え分会としても加入対策は重要と認識しており、対策を取り組んでほしい。

猪瀧(北薩)

組織態勢強化について、新採1名と再任用2名が加入し分会としても、一定の成果と認めている。しかし未加入者は現職2名、再任用4名となっている。今後、当事者においても退職者が増え分会としても加入対策は重要と認識しており、対策を取り組んでほしい。

〈地本見解〉

再任用の組織率については、大変厳しい状況となっているところ。

猪瀧(北薩)

再任用になる前から継続加入の声をかけるなど、早い段階からの対策が必要であると考えている。引き続き、取組を進め

〈地本見解〉

分会執行体制について、4月に5名中3名が異動になり、執行体制がとれず1ヶ月ほど2名体制でやっていた。今後、退職者が増える中で、後継者を作っていくかという不安がある。3年で異動となるシステムの中で、どのように執行体制を作っていくのか、若手を育てていくのが課題となっている。地本の指導を。また、分会において女性も積極的に執行部に登用し、討論できるような体制になるようすべき。

〈地本見解〉

再任用の組織率については、大変厳しい状況となっているところ。

猪瀧(北薩)

再任用になる前から継続加入の声をかけるなど、早い段階からの対策が必要であると考えている。引き続き、取組を進め

〈地本見解〉

再任用の組織率については、大変厳しい状況となっているところ。

猪瀧(北薩)

再任用になる前から継続加入の声をかけるなど、早い段階からの対策が必要であると考えている。引き続き、取組を進め



釜 (宮崎北部)



西山 (局)



川口 (熊本南部)



吉田 (大隅)



高木 (局)



藤川 (局)

高木 (局)

未加入者や新採の組織拡大について、九州地本は、全国でも最も高い組織率をもっていることとこれまで取り組んできた運動の成果だと考える。しかし、未加入者が42名となっている。各分会、再任用等、拡大に向けた取組をやっているが厳しい状況である。それは組合の状況や職場の雰囲気や左右されやすいものであり、分会だけの問題と片付けられない問題ではないかと考える。地本、分会が連携した対策を今後もお願いしたい。

また、未加入者対策をする側も大変であるので地本のバックアップもお願いする。

〈地本見解〉

組合に加入しない理由は、それぞれが様々な根強い理由を抱えていることが多いことや脱退して固定化していることも多く、組織率向上への大きな課題となっている。

未加入者対策をやめるのは簡単であるが、この間の取組がすべて無駄になってしまう。粘り強く継続して対策をすることが重要。いい返事をもらえないといつてそこで諦めるのではなく、一定期間おいて、再度加入促進をしていただきたい。未加入者の方とも、信頼関係を作り、継続した取組をお願いしたい。地本としても、組織化対策の取組について検討を進める。

青女傍聴発言



第17回青年女性委員長会議で確認した方針に基づき、「仲間を一人にしない」を柱に各分会が様々な活動・学習を展開する中で生活・職場実態改善と仲間の団結強化に向けて取り組みを進めてきました。

今年度も各分会で署長等会見を実施しました。2月には春闘学習交流会を開催し、各分会から浮き彫りになった実態を総

「仲間を一人にしない」を柱に

青年女性委員会事務局長 田畑 駿也

務企画部長会見において改善要求しました。生活・職場環境の改善のためにも引き続き継続して取り組みます。また、6月には6年ぶりとなる女性集いを熊本県人吉市にて開催しました。女性職員の採用が多くなっていますが、まだまだ男性職員の数に比べて少ない状況にあります。その職場の中で相談しにくいことや不安に感じていることをメインに分散会を行いました。

分散会では生活・職場における皆さんの意見が出されました。その不安を解消するため、今後も大衆諸行動において課題を

これまでもこの傍聴発言や委員

第19回地本大会

大会宣言

私たちは、昨年の第一八回地本定期大会以降、森林・林業基本計画の推進、国有林野事業の推進と組織・要員・労働条件の継続課題の解決、社会保障制度の充実など、連合・公務労協等と連携を図り、職場・地域で取組を進め本大会に結集した。

第二一通常国会は六月二一日までの一五〇日間の会期で論戦が行われ、安全保障やエネルギー政策、人権に関わる重要法案の論戦が焦点となったが、岸田首相は曖昧な答弁を繰り返し、野党からの追及に十分な議論が行われないまま野党が反対する中で数の力により採決が行われた。野党連携は困難な状況を抱

私たちは、国民無視、国会軽視の政治に歯止めをかけるために、次期国政選挙の勝利に向けて体制確立を再構築する必要がある。

環境と税については、私有林規模の小さい市町村において森林整備関係への使途が低調であることから、譲与基準見直し等の課題解消に向け、林活議連、関

一般林政については、森林経営管理制度が導入されたものの、必要がある。市町村の実行体制や林業事業体の育成・確保など依然として課題となっている。また、森林環

係団体等と連携し取組を進める必要がある。併せて、地域振興・地域林業の確立に向けて「山村振興法」の基本理念と附帯決議を踏まえた対策を図ることが重要となっている。

国有林野事業については、森林・林業政策及び事業の推進と労働条件を一体的なものとして取組を進めてきたが、現場管理機能の充実、民有林と国有林の連携強化等が図れる組織・定員とはなっておらず、継続した取組が必要となっている。加えて「樹木採取権制度」については、樹木採取権の設定規模の検討に係る新規需要創出動向調査

（マーケットサウンディング）が実施された。今後においても、このような規制改革・規制緩和の動向に注視し、国土保全、公益的機能の維持増進、地域産業に影響を生じさせないなどの取組を進めていく必要がある。

本大会では、一般林政課題、山村振興、国有林野事業の組織・要員・労働条件等に係る諸課題、今後の組織態勢の確立などについて、活発な議論が行われた。私たちはこうした議論の充実等、二〇二四春季生活闘争の前進と各級選挙の勝利、反戦・平和、民主主義を守る取組を進め、関連する労働者の総結集を図り組織の総力を挙げて闘うことをここに宣言する。

夢とロマンを持って取組継続を再確認

第18回九州地本青年女性委員長会議

7月22日～23日に「九州森林労働会館」にて、「第18回九州地本青年女性委員長会議」を開催しました。

今回は、新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されましたが、感染状況は続いている中、十分な対策を行った上で、分会代表者及び傍聴参加者合わせて39名が参加しました。

冒頭、平生青年女性委員長は「未だ新型コロナウイルスの感染が続くなか、傍聴者も含め、今回は私の知る限り過去最大の参加者となった。国有林野事業の健全化や労働条件の改善・九州地本青年女性委員会の更なる組織態勢の強化・発展に向け本会議が有意義なものになるよう活発な意見をお願いしたい。」と挨拶、続いて来賓の九州地本古村書記長より今までの経歴、労働組合の必要性や取り組みに「仲間を一人にしない」を柱に

委員相互の団結強化を図るなどこれまでの活動を無駄にすることなく、継続した取り組みを進めることが重要であると再確認し、全会一致で運動方針（案）を採択しました。

その後、役員改選を行い、山形新青年女性委員長の団結カンパニーで閉会しました。

役員改選については、平生青年女性委員長・田畑事務局長・石原女性常任委員が退任され3名の新メンバーが加わりました。新役員は次のとおりです。

山形 青年女性委員長（大分）
富島 青年女性副委員長（局）
東 事務局長（北薩）
長尾 女性常任委員（長崎）
片野 北部B常任委員（長崎）
木下 熊本B常任委員（局）
富田 宮崎B常任委員（宮南）
松井 鹿児島B常任委員（北薩）



各ブロックの総括討論

北部ブロック

秋吉代議員(長崎)



新規採用者や組合に属していない職員に、

加入を勧めることが組織強化の原点。組合活動の必要性や魅力、メリットを伝え、加入を促していくことが重要です。組合活動を通し、組合員から、さまざまな意見や思いを聞き出し、出された意見を要求まで繋げていくことは団結力の強化にとって大切なことと思います。しかしながら、各分会でも数人の組合員は、組合組織に身を置いていないだけの状態になっており、組合意識が薄れてしまいがちです。そうならないためには、オルグや職場集会など実施頻度に留意しながら、常に自分たちが労働組合を組織している主役であるという意識を持ち続けてもらわ

なければなりません。様々な意見収集を行い、参画意識を醸成するための活動を継続することが大切なことで、それがひいては労働組合全体が発展する原動力となるものと思います。この様な中、数年ぶりの地本レクリエーションの開催は、組合員の相互の親睦と交流、団結強化が図られるものと思います。職場を取り巻く環境については、なんとと言っても要員不足、空きポストの増加です。そのため業務量の増大、労働過重、そのしわ寄せは国有林野の管理そのものの質の低下につながるものではないかと思えます。現実的な業務量、堅実な計画と実行による健全化。要員の確保等継続して要求し取組を進めなければならぬと思えます。多くの課題が山積していますが、中央・地本・分会、組合員一人一人が一体となり諸課題の解決に向けても頑張ります。

熊本Bブロック

川口代議員(熊本南部)

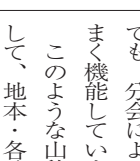


昨今の情勢の中で、コロナやロシアのウクライナ

特に物価上昇は、結果を得られるように、要求を行っていく必要があります。また、自然災害により私どもの分会でも、豪雨災害に見舞われ、3年経った今でも林道等の復旧が進まず、事業箇所への偏りや実行に頭を悩ませている職員がいます。この2年間、入札を行っても不調に終わり、災害予算は無くなっており、経常予算だけでは、早期復旧の目処がつかない状況です。林道は全ての事業の要です、必要な予算の要求、確保に向け活動を続けてい

宮崎Bブロック

楠本代議員(技術センター)

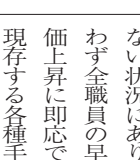


国有林野事業は、一般会計へと移行しても

少傾向にありますので、交渉課題の絞り込みや、交渉の形式など工夫しながら、やっていきたいと思います。そして、結果を組合員と情報共有することが大切だと思えますし、労働組合の最も基本的な取組ですので、よろしくお願ひします。人材育成については、大会の冒頭にも言いましたが、組織の中核、業務の中核を担ってきた世代が退職し、今後、若返りが進んでいきます。運動を引き継ぐ若い組合員を、

鹿児島Bブロック

川畑代議員(屋久島)



現状や大変熱い意見等を聞き、当

また、自然災害により私どもの分会でも、豪雨災害に見舞われ、3年経った今でも林道等の復旧が進まず、事業箇所への偏りや実行に頭を悩ませている職員がいます。この2年間、入札を行っても不調に終わり、災害予算は無くなっており、経常予算だけでは、早期復旧の目処がつかない状況です。林道は全ての事業の要です、必要な予算の要求、確保に向け活動を続けてい

総括討論決意表明

地本執行委員長 甲斐和幸



4ブロックから、それぞれの思いで総括討論をいただきます。あらためて、九州地本の抱える課題と、取り組むべき方向

この2日間の議論を受けて、組織強化の観点から、二点、申し上げたいのは、分会段階の労働使交渉と、人材育成であります。労働使交渉については、地本指示に対する交渉の実施分会が減

少傾向にありますので、交渉課題の絞り込みや、交渉の形式など工夫しながら、やっていきたいと思います。そして、結果を組合員と情報共有することが大切だと思えますし、労働組合の最も基本的な取組ですので、よろしくお願ひします。人材育成については、大会の冒頭にも言いましたが、組織の中核、業務の中核を担ってきた世代が退職し、今後、若返りが進んでいきます。運動を引き継ぐ若い組合員を、

うな、若者が何ができるかの可能性を実現してやるのが大切だ」という言葉があります。是非、各分会でも人を育てる能を発揮する中で、課題解消に向けて、最大限の努力をしたいと思います。

また、2日間の議論を踏まえて、要員の確保や要員不足に起因する課題の解消、賃金・労働条件の維持・確保など、地本がしっかりと舵を取り、地本機能

を念頭に地本と一つとなり、「一枚岩運動」の推進に向け取り組みを誓い、宮崎ブロックに大きな影響を及ぼしており、春闘では民間企業は軒並みベアアップの中、公務員給与は、物価上昇には全然対応できていない状況にあります。年齢を問わず全職員の早急な賃上げ、物価上昇に即応できる手当の創設、現存する各種手当の物価や生活スタイルに適応した支給要件の見直しが必要とされています。この様な状況の中あきらめ感や後ろ向きな意見なども聞かれ、組合に対する意識が低下しているのではないかと危惧しています。

また、2日間の議論を踏まえて、要員の確保や要員不足に起因する課題の解消、賃金・労働条件の維持・確保など、地本がしっかりと舵を取り、地本機能

を念頭に地本と一つとなり、「一枚岩運動」の推進に向け取り組みを誓い、宮崎ブロックに大きな影響を及ぼしており、春闘では民間企業は軒並みベアアップの中、公務員給与は、物価上昇には全然対応できていない状況にあります。年齢を問わず全職員の早急な賃上げ、物価上昇に即応できる手当の創設、現存する各種手当の物価や生活スタイルに適応した支給要件の見直しが必要とされています。この様な状況の中あきらめ感や後ろ向きな意見なども聞かれ、組合に対する意識が低下しているのではないかと危惧しています。

また、2日間の議論を踏まえて、要員の確保や要員不足に起因する課題の解消、賃金・労働条件の維持・確保など、地本がしっかりと舵を取り、地本機能

第19回地本大会

借しまれつつ退任

甲斐前執行委員長・前川前執行委員



甲斐前執行委員長 今大会で、退任ということになりました。

甲斐前執行委員長 今大会で、退任ということになりました。顧みずと、林野労組結成から、副委員長3年、書記長6年、委員長8年の17年間、地本役員を務めさせていただき、この間、本当に様々なことがあり、思い出も多くありますが、今感じるのは、はじめて地本役員をお願いされた時に、断る勇気より、引き受ける勇気を選んだこと、これが一番の思い出です。



前川前執行委員

このたび地本執行委員を退任する事になりました前川です。2期4年大変お世話になりました。組織・安全を担当させていただきました。執行委員になった年には今年度第6回開催も計画されていますが、第5回地本レクを開催することが出来ませんでした。青年女性委員会とイベントを企画したことを思い出します。ご苦労をお掛けした点もあると

を担うはずの若手にとつて不利な状況が続いていることも事実です。国有林野の組織存続のために、職員の人材確保はもとより、若手の人材育成に動かしきれないベテラン職員の皆様と組合の団結力を駆使しこの状況を打破するべく共に闘いましょう。私が考える労働組合の存在意義

の二つは、組合員一人ひとりが寄り添う風通しの良い職場をつくることだと思います。一人を抱え込むことなく即座に組合員内で共有し執行委員を通じて上層へ届け、より良い職場づくりや、より良い組織確立に向け交渉に取組んで参ります。